

## 第三者評価結果シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

### ①第三者評価機関名

株式会社 第三者評価

### ②評価調査者研修番号

SK15176
S25061
S25062

### ③施設名等

名称：	さくらこども学園
施設長氏名：	中河 篤司
定員：	42名
所在地(都道府県)：	兵庫県
所在地(市町村以下)：	赤穂市新田1444
T E L：	0791-46-0332
U R L：	http://www.sakuradani-fukushikai.com/sakura-c-campus/
<b>【施設の概要】</b>	
開設年月日	2010/4/1
経営法人・設置主体(法人名等)：	桜谷福祉会
職員数 常勤職員：	23名
職員数 非常勤職員：	1名
専門職員の名称(ア)	看護師
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称(イ)	心理判定員
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称(ウ)	栄養士
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称(エ)	家庭支援専門相談員
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称(オ)	
上記専門職員の人数：	名
専門職員の名称(カ)	
上記専門職員の人数：	名
施設設備の概要(ア)居室数：	居室37室
施設設備の概要(イ)設備等：	親子訓練室 心理療法室 医務室 静養室 病後児保育室
施設設備の概要(ウ)：	地域子育て支援スペース
施設設備の概要(エ)：	

### ④理念・基本方針

<p>《法人基本理念》</p> <p>①公益的事業の積極的取組み ②人権を擁護する ③発達支援・自立支援に向けたサービスの確立 ④医療・教育・福祉の連携強化 ⑤地域社会との共生</p> <p>《運営方針》</p> <p>①こどもの権利を擁護し安全で安心な生活の場を提供する ②養育の質を高め、発達と自立を支援する ③専門性を発揮できる人材の育成 ④家庭や地域の子育てを支援する</p>
--

### ⑤施設の特徴的な取組

<p>(1) 法人グループ(高齢者施設 4施設、保育園 6施設、児童養護 1施設)内の全ての施設が、積極的に3年毎に第三者評価に取り組んでいます。各施設で評価基準に関する勉強会を実施時、専務理事が先頭に立ち、自ら説明を行い参画する事で現場の施設長や職員は後ろに引くことが出来ない。その為、受審に際し、ありがちな分野・施設間による温度差が無い。各施設が各分野でトップランナーを目指しています。</p> <p>(2) 施設では、職員からの指示的な関わりよりも生活の中で児童の意見を尊重し、話し合いの中で解決していく事を重視しています。児童が主体的に意見を述べられるようになることで職員と児童が対話し、同じ体験をする事で共に生活し自立に向かって支援していけるような様々な取り組みを行っています。特に現場職員は、基本理念を共有し、職員研修等を通じて支援に関する共通認識を固り、一貫性、連続性のある支援を行っています。</p> <p>(3) 子どもへのきめ細やかな対応を目的に法人あげて一致団結し、トップダウン、9つの委員会方式、ルールの明確化、チームでの養育支援 及び 各職員の力量(個の力量)向上、専門性の強化、記録の徹底、子どもとの話し合い、聞き取りが特徴的な施設で</p>
---

前回の3年前より、進化されている事が多くの点で確認出来ました。今回の2度目の受審にあたり、法人の専務理事、施設長のトップダウンの基、全員参加で約10カ月間、懸命に準備をされた成果で、全86項目の内、ほぼ全ての85項目でa評価、1項目でb評価と言う好結果となりました。”しんどかったけど、真摯に取り組んで良かった”と感頂けたようです。この職員の取り組みが、日々の子どもの養育支援の質の向上に繋がり、子ども自身に”日々より良くなっている”と感じてもらえたら幸いです。

<特に評価が高い点>

- (1) 地域支援の一環として平成24年度から実施している『子育てサロン』の利用者が年々増えており、内容も充実し、「子育て支援」だけでなく、「母親支援」にも繋がっています。
- (2) 児童からの『聞き取り』の内容も多様化し、暴力、暴言等から、職員の振り舞いや自身の悩み、生活に対する提案等にも広がっています。また、毎月の『聞き取り』内容を数値化し、傾向を知る事で、より細やかな対策をたてる事が出来る様になっています。
- (3) 記録の内容・書き方が大きく成長されていますので、「記録により事実を語らしむ」事が可能となっています。
- (4) 毎日の予定表(子ども別・時間帯毎)で、役割分担・各人が為すべきことが明確になったことで、子どもの不安感も解消し、効率的な個別対応も可能となり、ムダ・ムラ・ムリ(3Mの撲滅)が出来るようになっていきます。
- (5) 食事が美味しい、食育の一環として実施している子どもへの「食育クイズ」が、上手く構成されており、子どもがそれを楽しみにしています。
- (6) 看護婦長の作成した性に関する教育資料、『生命の奇跡』(手作りエプロンシアター)が子どもの自己肯定感を高めています。
- (7) 法人全体で進めている『基本理念』の理解を深め、実践を促す取り組みは、取り巻く社会環境が大きく変化しているこの時代に、極めて重要な活動だと感じました。

【課題・・・b評価の1項目】 A-2-(13)-⑤ 国が定める基幹的職員は設置されていませんでした。中堅職員の方に、スーパーバイザーとしての自覚を持たせる上でも、基幹的職員研修を受講され、日本初の ALL A (評価基準86の全ての項目で A) の施設を目指して下さい。

最後に、今回の評価は、施設の親子訓練室に宿泊しての1泊2日の評価とさせて頂きました。夕方、夜 及び 翌早朝に子ども達と 鉄棒、縄跳び、トランプ(手品、爺抜き、神経衰弱)、将棋、オセロで遊びました。将棋では何とか競り勝ちするも、オセロ・トランプでは完敗しました。3年後迄には、私も腕を磨き、リベンジに伺いますので、子ども達 将棋名人・竜王 オセロ名人に ”腕に磨きを掛ける様” お伝えください。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

1年間かけて評価項目の見直しを行い一つ一つ対応できるよう役割分担し取り組みを行って来ました。その結果本来必要とされる支援、記録等について再確認でき、職員にとって良き学びの機会となりました。評価結果同様に受審するまでの取り組みの過程を大切にすることで、職員に次への意欲が生まれてきたと思います。ありがとうございました。

⑥第三者評価結果(別紙)

(別紙)

第三者評価結果(児童養護施設)

共通評価基準(45項目) I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が文書(事業計画等の法人・施設内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等)に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人・施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人・施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○

<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、法人・施設が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	○
<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○

【コメント】

『全社協福祉ビジョン』、『赤穂市地域福祉計画』、『全養協通信』等関係通信誌等の最新版を入手して経営環境の把握を行って対応している事が関係ファイルにて確認出来ました。

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a	3
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○	
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○	
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○	

【コメント】

『経営3ヵ年計画』が策定され、経営課題、目標達成の為にそれぞれ委員会を設けて、解決・改善に向けて取り組んでいることが各委員会議事録にて確認出来ました。また法人による経営計画策定委員会で四半期ごとに進捗状況の検証がされていることも確認できました。

### 3 事業計画の策定

(1)	中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果	4
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○	

【コメント】

『経営3ヵ年計画』として中・長期ビジョンと計画が明確にされており、その中で経営計画策定委員会により毎年の実施状況の検証、見直しがされていることが「検証シート」にて確認出来ました。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a	5
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○	

<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	○
<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。	○

【コメント】

『経営3か年計画』として中・長期ビジョンと計画が明確にされており、その検証を四半期毎に実施し、「検証シート」として、法人の経営計画策定委員会に報告されている事が確認出来ました。

② 7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	a
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	○

7

【コメント】

児童に対し、『運営方針』、『事業計画』の内容を分かりやすく説明した資料を掲示し、また実現のための取り決め等について児童達の意見を取り入れて策定されていることが掲示板や表示パネルから確認出来ました。尚、保護者に対してはHPや機関誌による情報提供を行っています。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果
① 8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	○
<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

8

【コメント】

養育・支援について、管理職、ユニットリーダー、各委員会の委員長で構成される「サービス評価委員会」の組織を設け養育・支援の内容について評価検討できる体制が整備されていることが実施記録で確認出来ました。

② 9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a
<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	○
<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	○
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	○

9

<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	○
<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(災害、事故等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	○

【コメント】

施設長の役割と責任が『広報誌』、『事業計画』、『職務分掌』、『事故発生初動対策マニュアル』等で明確にされていることが確認出来ました。

② 11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a	11
<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○	
<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○	
<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○	

【コメント】

社会的養護関係の法令だけでなく、児童福祉法、社会福祉法、消防法、労働安全衛生法、労基法等、『遵守すべき法令・通知一覧ファイル』で、職員がいつでも閲覧できるようにして、周知を促していることが確認出来ました。パフォーマンス(そうした取り組みの成果)評価として、10名程度の職員に「遵守すべき具体的な法令名」を語らせて頂き確認しました。取組みが実り成果が上がっている事も確認しました。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

① 12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a	12
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○	
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○	
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○	
<input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○	

【コメント】

養育・支援の質の向上に対し委員会を設け全職員を何らかの委員会のメンバーに配置して職員の意見を反映させる体制を構築すると共に「サービス評価委員会」を設置して養育・支援の質の評価検証が実施されていることが確認出来ました。職員の教育・研修については「研修委員会」にて作成した『研修計画・階層別職員研修表』に基づき実施されていることが確認出来ました。また施設長は「社会福祉施設長資格認定講習修了証」等々にて自己研鑽されている事を確認しました。

② 13 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a	13
<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○	
<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構	○	

<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	○
<input type="checkbox"/> 法人・施設として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	○

【コメント】

『階層別職員研修計画』、『施設内外研修計画』を策定して、職員育成に関する方針を明記して実施しています。

② 15 総合的な人事管理が行われている。	a	15
<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。	○	
<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	○	
<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	○	
<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○	
<input type="checkbox"/> 職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができています。	○	

【コメント】

『階層別職員研修計画』を策定し、「人材育成」、「期待する職員像」、「人事基準」を明確に定め職員に周知されていることが、「キャリアパス表」・「自己成長シート」から確認出来ました。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		16
① 16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a	
<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○	
<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○	
<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○	
<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような施設内の工夫をしている。	○	
<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○	
<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○	
<input type="checkbox"/> 人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○	

【コメント】

「就業表」だけでなく、職員の就業状況や意向を考慮した日々の「勤務予定表」に基づく労務管理が実施されていることが確認出来ました。また、定期的に個人面談の実施や「更生委員会」による総合的な福利厚生の検討、実施がされている事が「自己成長シート」、委員会活動記録から確認出来ました。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		17
① 17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a	
<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みづくりを行っている。	○	

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a	18
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○	
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○	
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○	
【コメント】			
職員の教育・研修に関する基本方針や計画として、「階層別職員研修計画」に基づき職員一人ひとりに配慮した教育・研修の機会が確保されていることが確認出来ました。			

③	19 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a	19
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○	
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○	
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○	
【コメント】			
「階層別職員研修計画」に基づき「研修委員会」で職員一人ひとりに配慮した研修の計画、実施が行われ、進捗確認、見直しが実施され、PDCAが回っている事が確認出来ました。			

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。			
①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a	20
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○	
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の教育・育成についてのマニュアルが整備されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○	
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○	
【コメント】			
『実習マニュアル』、「プログラムシート」が整備され、指導者に対する研修も実施されています。また、学校と協議し、『実習ハンドブック』を作成したりして連携もされていることが確認出来ました。			

3 運営の透明性の確保			第三者 評価結果
(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。			
①			

HPを活用して、運営の透明性を確保するための情報公開が行われている事が確認出来ました。地域に向けては広報誌により実施されています。尚、決算状況は、直近3カ年分 26年度・25年度・24年度決算状況（資金収支計算書、事業活動収支計算書、財産目録等）を掲載されています。		
22	② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○
【コメント】 事務・経理等については法人本部主体で運営されており、職員にも周知されています。又、外部監査（公認会計士 Y 事務所 平成26年3月6日実施）、内部監査、幹事監査等が適正に実施されていることが確認出来ました。		

#### 4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
23	① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○
【コメント】 「地域社会との共生」を法人基本理念の中に掲げており、地元の子供会の副会長を職員が担い子供と地域の行事や活動に積極的に参加する取り組みが行われています。また、地域の子育て支援の場として施設を開放したり、地域における社会資源の利用も積極的に行っています。学校の友人等が自由に来てもらえる環境になっており、「来園者の管理記録」も確認しました。		
24	② 24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している	○
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○
【コメント】 『ボランティア・マニュアル』により、受け入れに関する基本姿勢を明文化すると共に、近隣のK福祉大学と協力し、学生を対象とした福祉人材の養成の一環として積極的に受け入れる体制を確立されています。		

<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○

【コメント】

行政からの広報誌、パンフレット、学校からの連絡プリント等の情報を職員会議で回覧したり、各フロア毎に掲示したりして共有化が図られています。また、関係機関との連絡会や学校、幼稚園との合同研修会を定期的実施し、連携されています。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

① 26 施設が有する機能を地域に還元している。	a	26
<input type="checkbox"/> 施設のスペースを活用して地域住民との交流を意図した取組を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かし、地域住民の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。	○	
<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かした相談支援事業、支援を必要とする地域住民のためのサークル活動等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 災害時の地域における役割等について確認がなされている。	○	
<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。	○	

【コメント】

毎週金曜日に幼児棟や園庭を利用した「子育てサロン」を行い、地域に対し有する機能の還元を積極的に行っています。また災害時は「地域の避難場所」として指定されています。

② 27 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a	27
<input type="checkbox"/> 施設の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。	○	
<input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○	
<input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業を実施することなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	○	
<input type="checkbox"/> 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○	
<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○	
<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○	

【コメント】

「子育てサロン」による機能の地域還元、民生委員、児童委員等との定期的な連絡協議会や関係機関・団体との連携によるニーズの把握、子育てサロン、ショートステイ事業が行われていることが確認出来ました。また、子育てサロンは事業・活動計画の中にも明示されていました。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。	第三者 評価結果	28
① 28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○	

『基本理念（第2項 人権を擁護する）』、『運営方針（第1項 子どもの権利を擁護し安全で安心な生活の場を提供する）』に子どもの尊重と人権について明記されていることが確認できました。基本理念についての職員研修を年間を通じて開催し、その中で説明する機会が設けられています。また外部講師を招いて『子どもを尊重した養育・支援』について職員が理解できる機会をつくるなどの試みがなされています。子どもの状況把握のための聞き取り方法を学ぶ為に、職員が経験年数に応じた（新任向け、3～5年向け等）ロールプレイプログラムを作成し実践しています。

②	29 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援の実施が行われている。	a	29
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、子どものプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

全国児童養護施設協議会の「児童養護施設における人権擁護のためのチェックリスト」を基に、『プライバシーに関するマニュアル』を整備し、職員会議にて説明を行っています。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a	30
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特徴等を紹介した資料を準備している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	<input type="radio"/>	

【コメント】

<特に評価が高い点> 施設を紹介する資料 『さくらこども学園 どんなところ』は、内容が充実しており、分かりやすく、絵や写真も多く取り入れていました。（日本語・中国語バージョンあり）

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a	31
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 説明にあたっては、子どもや保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。	<input type="radio"/>	

<input type="checkbox"/>	養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
<input type="checkbox"/>	他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
<input type="checkbox"/>	施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
<input type="checkbox"/>	施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【コメント】

入所時には可能な限り子どもとの事前面接をし、各関係機関と協議・連携の上で行っています。他施設や里親への移行の際は「引継ぎ文書」を作成し協議を行う等、子どもの混乱や不安を最小限にするよう配慮しています。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者  
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a	33
<input type="checkbox"/>	子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○	
<input type="checkbox"/>	子どものへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○	
<input type="checkbox"/>	職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○	
<input type="checkbox"/>	子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○	
<input type="checkbox"/>	分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○	

【コメント】

毎月の「聞き取り」やユニットごとの「話そう会」にて子どもの意向を把握しています。保護者に向けては、電話連絡と面会・外泊時の面接にて把握し、子どもの意向を確認しながら行っています。10月に実施した小学校4年生以上アンケート（26回収/26配布 100%回収率）でも子どもの満足度は高い結果となっていました。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a	34
<input type="checkbox"/>	苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○	
<input type="checkbox"/>	苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○	
<input type="checkbox"/>	苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○	
<input type="checkbox"/>	苦情内容については、受付と解決を図った記録が適切に保管している。	○	
<input type="checkbox"/>	苦情内容に関する検討内容や対応策については、子どもや保護者等に必ずフィードバックしている。	○	
<input type="checkbox"/>	苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た子どもや保護者等に配慮したうえで、公表している。	○	
<input type="checkbox"/>	苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○	

【コメント】

『法人苦情解決規程』、「苦情解決フローチャート」にて仕組みが明文化されており、管理棟玄関ホールにその仕組みを掲示しています。苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た子どもや保護者等に配慮したうえで、HPや館内掲示で公表しています。HPでは、平成25年度分が掲載されており、H26年度は「苦情が無かった」ので、「無かった」と言う事をHPにも明記される事を推奨致します。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a	35
<input type="checkbox"/>	子どもが相談したい音目を述べたい際は、複数の方法や相手を選ぶべ...	○	

<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

子どもからの相談、意見や苦情については、職員会議・棟会議の議題として検討し、その結果を子どもが見通しが持てるように説明をしています。又、毎月の聞き取りから出た内容についても、権利擁護委員会・棟会議の議題として検討し対応しています。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。 第三者  
評価結果

① 37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	37
<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○	
<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○	
<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○	
<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○	

【コメント】

主に、「衛生環境委員会」にて見直しを担当する『事故発生時対応マニュアル』、『安全管理マニュアル』、『暴力問題への緊急対応マニュアル』等のマニュアルに「ヒヤリ・ハット報告書」で浮かび上がった事例を追記・修正する形で、危険源に対し未然に防止策を打ったり、注意喚起を行っています。今後もハイインリッヒの法則(重大事故1:軽微なケガ29:ヒヤリとしたインシデント300の確率での発生)の知見を生かされた、未然防止、再発防止を期待致します。

② 38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	38
<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○	
<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。	○	
<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○	
<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○	
<input type="checkbox"/> 感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。	○	
<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。	○	

【コメント】

感染症の流行する前に、看護師長の指導で職員研修を行い、症状や対応について勉強しています。また、各棟に『感染症マニュアル』を配布し、いつでも見れるよう設置しています。万一、発生した場合も想定し、『フローチャートの手順書』を作成しています。

<input type="checkbox"/> 防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。	○
【コメント】	
【次年度以降、さらに充実を期待する点】 安否確認の連絡手段が、固定電話・携帯電話の連絡網で作成されていますが、連絡方法の2重化、3重化として、大災害時により繋がりがやすい「携帯電話メールでの連絡網」、及び 災害用伝言ダイヤル171、WEB171も活用される事を推奨致します。（自然災害リスクは日本が世界1高く、南海トラフ<震度6~7クラス>は30年以内に60%の確率で起こるとされています。固定電話・携帯電話は、阪神大震災・東北大震災の例で、2~3時間で輻輳状態となり、繋がらなくなる可能性が高いとされています）	

## 2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果	
① 40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a	40
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○	
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。	○	
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○	
<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○	

### 【コメント】

<特に評価が高い点> 『運営指針』を基準として支援の質を確認しています。各棟の責任者が『各種マニュアル』で決めた通り、実践されているかチェックしています。その結果は、サービス評価委員会にて話し合いが行われています。又、毎日の予定表（子ども別・時間帯毎）で、役割分担・各人が為すべきことが明確になったことで、子どもの不安感も解消し、効率的な個別対応も可能となり、ムダ・ムラ・ムリ（3Mの撲滅）が出来るようになっていきます。

② 41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	41
<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○	
<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に実施されている。	○	
<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○	
<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○	

### 【コメント】

『各種マニュアル』で決めたルールが、現実を反映したものが否か定期的に振り返りを行って、改善サークルPDCAを回しています。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		
① 42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a	42
<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○	
<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○	
<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員（種別によっては施設以外の関係者も）が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○	

子ども自身はもちろん、保護者、子ども家庭センターや教育機関から意見等の情報を集め、ケース会議で主観的にならないよう配慮し話し合いが行われています。自立支援計画書に、「子どもの具体的なニーズ」を明確に分かりやすく記載しており、適切な策定が行われています。また、計画通り実施されている事を確認する仕組みが機能している事も確認しました。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a	43
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○	

【コメント】

『自立支援計画のフローチャート』に沿って、半年毎に見直しがされており、変更があった場合、関係職員に周知する”情報共有システム”及び職員会議での伝達も機能している事を確認しました。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a	44
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○	
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○	
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○	
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○	

【コメント】

養育・支援の実施記録は、主に「生活日誌」、「ケース記録」に記載されていて毎日のミーティングで確認し、また職員会議・棟会議で検討や対応を行い、その情報は、「情報共有システム」でも全職員が共有しています。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a	45
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○	
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○	

①	A1 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	a	A1
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているかを、振り返り検証する機会が設けられている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもの養育や成長にとって何が最善なのかを、職員間において常に話し合える環境にある。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 職員が日々子どもとのやり取りを振り返り、必要に応じてスーパービジョンを受けられる環境が整っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 受容的・支持的なかかわりを基本としながらも、養育者として伝えるべきメッセージはきちんと伝えるなど、子どもの状況に応じて適切な対応ができるよう、常に子どもの最善の利益を考慮し真摯に向き合っている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

子ども各々の自立支援計画書の作成と2回/年の見直しを行うことで支援の振り返りを行っている。また子ども一人ひとりに対して毎月聞き取りを行うことで職員が各々の子どもに関わる時間を取っている。そしてその情報を共有し検証するための会議、委員会を開催し、職員が話し合える場を設けている。日々の情報共有のために2回/日ミーティングを行い、その中で職員の勤務交代による情報共有の漏れがないよう取り組み、また支援する中で経験の少ない職員がスーパービジョンを必要とした際、施設長、養護課長、主任、看護師、心理士からスーパービジョンを受けられる体制が整っていることが確認できた。

②	A2 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	a	A2
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

子どもに自己の生い立ちを知らせるタイミングや内容については保護者・こども家庭センターの意向を踏まえ行っており、又、伝えた後の子どもの変容を把握するために、会議等を通して施設職員間のみならず学校、こども家庭センターとの連携を取りながら実践していることが確認できた。

(2) 権利についての説明

①	A3 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	a	A3
	<input type="checkbox"/> 定期的に全体場で権利についての理解を深めるよう、子どもたちに説明している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、施設生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 年齢に配慮した説明を工夫している。(例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会)	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかげがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないことまた、他人を傷つけたり脅かししたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

子ども一人ひとりに対して毎月聞き取りを行い、その内容を施設内で構成している「棟会議」「職員会議」「権利擁護委員会」で検討し、個別・棟別・年齢別にフィードバックしており、自己・他者の権利について高年齢児用、低年齢児用

各ユニットは縦割りで構成しており、子どもたちが異年齢児との関わりが持てるよう、又、年齢が異なることで少しずつ生活時間が異なることで職員と子どもが個々に関わるができる時間が確保できるよう努めていた。又、各種行事では法人内の老人施設の方々との交流行事を組み込むなど、多くの人との触れ合いの場を設けている。

(4) 被措置児童等虐待対応

①	A5 いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a	A5
	<input type="checkbox"/> 「就業規則」等の規程に体罰等の禁止を明記しており、規程に基づいて厳正に処分などを行う仕組みが行われている。	○	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待防止ガイドラインに示されているような具体的な例を示して、日常的な会議や研修会等で体罰等を禁止している。	○	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等への虐待行為や不適切対応があった場合、主管行政窓口や児童相談所等に報告するとともに第三者委員等も入れて適切な調査をし、対処することが出来ている。	○	

【コメント】

『就業規則第24条（第8項）（第13項）』に体罰等の禁止が明記されていることが確認できた。又、被措置児童等への虐待行為や不適切対応は過去2～3年に確認されなかった。職員研修では過去のケースなどを用いて説明することで職員が体罰等を行わない事への周知徹底を図っています。

②	A6 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a	A6
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うような仕組みがつけられている。	○	
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりを発見した場合には、記録し、必ず施設長等に報告することが明文化されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 暴力、人格的辱め、心理的虐待などの不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示し、職員に徹底している。	○	
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。	○	
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けている。	○		

【コメント】

毎月実施している各々の子どもへの聞き取りの中で不適切な関わりがないか、防止と早期発見に努めています。又、子どもと職員で構成する『話そう会』の中で話し合いをすることで見逃しがないよう取り組んでいることが確認出来ました。又、ロールプレイなどを使い『いじめ』などについて子どもたちがわかりやすく理解できるよう取り組んでいます。

③	A7 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	a	A7
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について、対応マニュアルが整備され、かつ日常的に活用できるようにしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告があった場合に、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができています。	○	
<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明しているとともに、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	○		

【コメント】

思想・信教の自由を妨げる規則はなく、思想・信教の自由を『あなたの未来をひらくノート』を使用して子どもたちへ説明を行っていることも確認できた。

(6) こどもの意向や主体性への配慮

①	A9 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受け止め、不安の解消を図っている。	a	A9
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎える準備をしているなど様々な工夫を凝らし、受け入れについて施設全体で行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 被虐待体験だけでなく、子どもの分離体験に関して施設側が理解し、配慮している。	○	
	<input type="checkbox"/> 分離体験からの回復に関する課題への具体的な取組を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 入所の相談から施設での生活が始まるまで、子どもや保護者等への対応についての手順を定めており、定期的に見直しを行い、実践している。	○	

【コメント】

入所に関する手順は『入所マニュアル』を作成しそれに沿って行われている。子どもの入所前に担当職員との面談を行い、その子の好みを確認し、入所日のメニューに加えるなど分離経験への配慮が見られました。又、入所後は心理士による聞き取りを行い入所児童の不安解消を図っていることが確認できた。

②	A10 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。	a	A10
	<input type="checkbox"/> 生活改善に向けての取組を職員と子どもが共に考え、実施している。	○	
	<input type="checkbox"/> 生活日課や生活プログラムは子どもとの話し合いを通じて策定している。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	○	

【コメント】

各ユニットで『話そう会』を行い、生活改善に向けて子どもと職員が共に考える場を設け、問題解決や課題に対して子どもが主体となりその会を進めていることが確認できた。

(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活

①	A11 日々の暮らしや、余暇の過ごし方など健全な生活のあり方について、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。	a	A11
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの趣味や興味、生活文化にあった生活になるように子どもの意見を反映させ、適宜変更している。	○	
	<input type="checkbox"/> 図書、雑誌、新聞等、またテレビ、ビデオ、オーディオ等が、子どもの健全な発達に考慮したうえで、自由に使用できる。また、ゲームの適切な使用の配慮がされている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもが主体的に生活に関わることができるよう工夫がされている。	○	
	<input type="checkbox"/> 活動に対して自発的な参加を促すよう支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 行事等の参画について、子ども一人ひとりの選択を尊重している。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもが地域の活動等に参加することを望む場合、可能な限りそれに応えている。	○	

【コメント】

子ども主体の『話そう会』、『食事会』の際に子どもから意見を出して、余暇の時間の過ごし方を考えています。地域の行事に参加、アルバイト、部活動、スポーツ少年団などへの参加も子ども自身が決定し、新しい経験を通して子どもが社会性を身に付けられる機会を設けています。

②	A12 子どもの発達段階に応じて 金銭の管理や使い方など経済観念が身		
---	------------------------------------	--	--

子ども各々のお小遣い帳・通帳を作成し、年齢に応じたルールを決めて買い物に行くなどすることで金銭感覚が養えるよう支援がされている。また自立を控えた高校生には親子訓練室を利用して一定期間一人暮らしするなど自立訓練を行っている。

(8) 継続性とアフターケア

①	A13 家庭復帰にあたって、子どもが家庭で安定した生活が送ることができるよう復帰後の支援を行っている。	a	A13
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰にあたって復帰後の生活を検討している。	○	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや家族の状況把握や支援方法など関係機関との役割を明確にしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰相談を受けることを本人、保護者等に伝えている。	○	
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや保護者等の状況の把握に努め記録を整備している。	○	

【コメント】

家庭復帰前に子ども家庭センター、学校等を交えた家庭復帰調査会議で協議し決定している。又、家庭復帰後の状況把握のため、定期的な連絡を取り、「アフターケア記録」に記載されている。また家庭復帰後の相談業務ができるよう施設側担当者を子どもと保護者へ伝え、いつでも相談を受け入れられる体制が整っています。

②	A14 できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	a	A14
	<input type="checkbox"/> 高校進学が困難な子どもや高校中退の子どもなどについて措置継続を行い、自立に向けた支援を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 措置延長の期間は、就労支援や就労生活を支援するなど、自立への道筋をつけていく取組を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。	○	

【コメント】

高校進学をしない若しくは中退した場合、子どもと話し合い施設内外、関係機関と協議の上その後の進路を決定し、必要であれば措置延長を行うことができることを子どもに伝えていきます。措置延長した事例は現在のところ無し。(アフターケアの内容にはなりますが、家庭復帰で大学進学した後、中退してしまった子どもに対して就労支援したという事例はありました)

③	A15 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a	A15
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○	
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○	
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○	

【コメント】

リービングケアを目的とし、親子訓練室を利用した自立訓練を(昨年度は2名、本年度は3名)行っている。退所後の施設側担当を子どもと保護者に伝え、相談を受けられる体制を整えています。自立後も定期的に連絡をとり、その内容を「アフターケア記録」に記載されていることが確認できました。又、本人以外の関係機関(就労先、学校、警察等)からの連絡にも対応した事例も確認できました。

A-2 養育・支援の質の確保

	<input type="checkbox"/> 子ども達に職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	○	
<b>【コメント】</b> CWが日々の様子観察について記録を個別に行い、共通の対応ができるようしています。また、ケースカンファレンス等を随時行って、心理士・看護師との連携により、より良い支援を日々協議できる話し合いを実施しています。			
	② A17 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	a	A17
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を把握している。	○	
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	○	
	<input type="checkbox"/> 高年齢の日課は、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。	○	
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めるとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	○	
<b>【コメント】</b> 毎月の「聞き取り調査」や「話そう会」等で子どもの意見を聞き、権利擁護委員会や各棟会議で共有、検討しています。又、日々の中でも子どもからの要望が出た時は記録や引継ぎを通してCW間でその情報を共有しています。			
	③ A18 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	a	A18
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。	○	
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> つまづきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。	○	
<b>【コメント】</b> CWは子どもの自立を目標に支援にあたっています。子どもを主体にCWは寄り添いながら、子どもの成長の妨げとならないように配慮しています。また、ミーティングや職員会議などで対応を見直し、「棟日誌」を活用し、共通理解を図っています。			
	④ A19 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	a	A19
	<input type="checkbox"/> 施設内での保育が、年齢や発育状況に応じたプログラムの下、実施されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握できている。必要性があれば可能な限りニーズに応えている。	○	
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換	○	

⑤	A20 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a	A20
	<input type="checkbox"/> 職員の指示や声かけが適切で、施設全体が穏やかな雰囲気の中で秩序ある生活が営まれている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解できるよう子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 見やすくわかりやすい掲示物など、子どもが社会生活を営む上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会的ルールを習得する機会を設けている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

CWの声掛けの仕方や、態度等は各種会議や研修で取り上げ、職員の「月目標」を決めるなど、一人一人の意識向上を図っています。

(2) 食生活

①	A21 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	a	A21
	<input type="checkbox"/> 食事の時間が適切で、食事を通して生活のリズムが形成されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 無理なく楽しみながら食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 食事の時間が、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり、盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> クラブ活動等子どもの事情に応じて、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 施設外での食事、来客を迎えての食事など、食事を楽しむ多様な機会を設けている。	<input type="radio"/>	

【コメント】

厨房で調理し、各棟・各フロア毎に職員と共に食事を取っており、毎週日曜日は、家庭的養護の一環として、ユニット調理を実施しています。この取り組みも2年目となり、児童にも浸透し、食への関心を高めるだけでなく調理技術の向上にも繋がっているとの事でした。

②	A22 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a	A22
	<input type="checkbox"/> 配慮のこもった献立であるとともに子どもの発育に必要な栄養摂取量を満たした食事を提供している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢、障害や疾病、食物アレルギーなど子どもの心身の状況、また体調など日々の健康状態に応じ、それらに配慮した食事を提供している。	<input type="radio"/>	
	<input type="checkbox"/> 少数の子どもを対象として家庭的な環境の下で調理するときであっても、配慮のこもった献立であり栄養面も勘案されるよう、献立について振り返る機会がある。	<input type="radio"/>	

【コメント】

<input type="checkbox"/> 偏食の指導を適切に行っている。	○
<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。	○
<input type="checkbox"/> 買い物を手伝って材料の選び方を知る機会を設けている。	○
<input type="checkbox"/> 箸、ナイフ・フォーク等食器の使い方や食事のマナーが習得できるよう支援している。	○
<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつを作る機会を設けている。	○
<input type="checkbox"/> テーブル拭き、食器洗い、食器消毒、残飯処理など食後の後片づけの習慣が習得できるよう支援している。	○

【コメント】

<特に評価が高い点> 食事が美味しく、食育の一環として実施している週間献立表に掲載されている「食育クイズ」が、上手く構成されており、子どもがそれを楽しみにしています。「食育クイズ」の例-①収穫すると熱を発する野菜は何でしょうか？ ②洋食のフルコースで、テーブルにナイフとフォークが何組かある場合、内側から使っていく。○か×か？ ③ごはん+とり肉+玉子+玉ネギ この材料でどんなごはんが作れるか？  
 答え・・・①とうもろこし。とうもろこしは収穫すると急激に温度が上がり、持っている熱！！と感ずる様になります。②× 「洋食のコース料理」では、出て来る料理によってナイフやフォークを使い分けます。ナイフとフォークは外側から順に使っていくように並べられています。③親子丼、チャーハン等々。

(3) 衣生活

① A24 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a	A24
<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	○	
<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	○	
<input type="checkbox"/> 靴についても清潔で体にあったものが提供され、汚れや水濡れにも適切に対応している。	○	
<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○	
<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	○	
<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	○	
<input type="checkbox"/> 発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	○	

【コメント】

衣類の管理については「衣類管理表」で児童の所有状況を把握し、サイズ、種類等適切に所持できるよう把握している。また子どもの好みや季節、TPOに応じた服装ができるよう買い物をする機会を設け日常的に支援も行っている。又、職員自身も見本となるように努めているとの事でした。

(4) 住生活

① A25 居室等施設全体がきれいに整美されている。	a	A25
<input type="checkbox"/> 庭がきれいに清掃され、樹木や草花の植栽にも配慮が届いている。	○	
<input type="checkbox"/> 室内は明るく、花や絵画が飾られるなど、温かみのある環境になっている。	○	
<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	○	
<input type="checkbox"/> トイレ、洗面所等は性別や年齢に応じて使いやすいように配慮している。	○	
<input type="checkbox"/> 必要に応じて、冷暖房設備を整備している。	○	

<input type="checkbox"/> リビングや居室は子どもが安心していられる場所になるような配慮がされている。	○
<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	○
<input type="checkbox"/> 年少児の居室は、職員目の届きやすいところに配置している。	○

【コメント】

小学生高学年以上は個室を用意し、幼児、小学生、中高生と同じ生活空間の中でも場所を区切ることで小集団での活動が行えるように配慮しています。

(5) 健康と安全

① A27 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	a	A27
<input type="checkbox"/> 常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄、生理等の状況を職員がきちんと把握している。	○	
<input type="checkbox"/> 手洗いやうがいの習慣が身に付くよう支援している。年少児については排泄後の始末や入浴の介助をしている。	○	
<input type="checkbox"/> 洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り、耳そうじ等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。また必要に応じて入浴やシャワーが利用できるなどの配慮がされている。	○	
<input type="checkbox"/> 定期的に理美容をしている。	○	
<input type="checkbox"/> 寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、衛生管理ができるよう支援している。また夜尿のある子どもについては、子どもの自尊心に配慮しながら支援している。	○	
<input type="checkbox"/> 施設内外における危険箇所等を把握し、子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 子どもの交通事故を防止するため、交通ルール等について日頃から子どもに教えている。	○	

【コメント】

洗顔、整髪、ひげ、歯、つめ、耳そうじ等身だしなみは、CWが適時、声掛けで確認し、幼小児に関してはCWが、中高生に関しては自分自身で行うようにしている。又、2週間に1回のペースで、「身だしなみチェック表」を活用し、確認を行っています。

② A28 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a	A28
<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○	
<input type="checkbox"/> あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。	○	
<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○	
<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○	
<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	○	

【コメント】

毎月、身体測定を行い、「発達曲線」に記入しており、発達不良の子どもに関しては受診の時期を見逃さないようチェックしています。日々の健康状態はCWからの連絡で、受診が必要であるかを看護師長が見極めていきます。又、予防接種に力を入れており、児童の予防接種状況、今後の予定を一覧表にする事で計画的に実施しています。

(6) 性に関する教育

<特に評価が高い点> この項目も大きく進化されていました。看護師長が、数カ月掛け構想・試行錯誤して作成した『生命の奇跡』の出来映えは素晴らしい（子どもの自己肯定感を高める目的で、胎児の成長過程を綺麗に分かりやすく見せる正にこれぞエブロンシアター、疑似体験も出来る様に作成されています）

(7) 自己領域の確保

①	A30 でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とされている。	a	A30
	<input type="checkbox"/> 子どもが小さい頃から、自他の境界線がわかるような支援方法を心がけている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 個人の所有物が保管できるよう個々にロッカー、タンス等を整備している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 紛失防止のためにも、個々の子どもたちに片付け方を教えている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 個人所有の物は、でき得る限り子どもの好みを尊重している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> まだ字が読めない子どもに対しては、イラストマークを使用するなどして、所有物がわかる工夫をしている。記名やマークは、でき得る限り子どもからの許可を得、子どもが恥ずかしがらなくても済むような場所に留める。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

入所時から個別のタンスやおもちゃ入れ等を用意し、自他の「物」や「空間」が区別できるように心掛けています。また茶碗、コップ、箸については全て個人所有としている。

②	A31 成長の記録（アルバム等）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	a	A31
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集、整理に努めている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返ることができ、子どもの生い立ちの整理につながっている。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 可能な子どもとは共に、成長の記録(アルバム等)を整理している。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> アルバム等は年齢や状況に応じて個人が保管し、子どもがいつでも見ることができる。	<input type="checkbox"/>	
	<input type="checkbox"/> 子どもが施設を退所する時に、成長記録(アルバム等)が手渡されている。	<input type="checkbox"/>	

【コメント】

<特に評価が高い点> 各人のアルバムが、子どもと共に綺麗に作成されています。子どもがいつでも見ることができる場所に保管し、子どもの意思を尊重し、完成後に渡しています。

(8) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A32 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a	A32
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもを安全を図る配慮がなされている。	<input type="checkbox"/>	

②	A33 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a	A33
	<input type="checkbox"/> 人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。日頃から他人に対する配慮の気持ちや接し方を職員が模範となって示し、子どもへ説明をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	○	
	<input type="checkbox"/> 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合については、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	○	

【コメント】

施設のグランドルールにおいて暴力暴言、いじめの禁止を児童、職員共通のルールとし防止に向けて施設全体で取り組んでいる。またこども家庭センターと密に連絡をとり、情報を共有しながらより丁寧な対応ができるように配慮しています。又、入所前には学校に行き情報を共有しています。

③	A34 虐待を受けた子ども等、保護者等からの強引な引取りの可能性がある場合、子どもの安全が確保されるよう努めている。	a	A34
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りのための対応について職員に周知徹底している。	○	
	<input type="checkbox"/> 引取りの可否等について、児童相談所との連絡を適宜行い、判断が不統一にならないようにしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 緊急時には協力を依頼できるよう、警察との連携を図っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りが考えられる場合、他の子どもへの安全についても配慮がされている。	○	

【コメント】

強引な引取りが考えられる場合は、『危機対応マニュアル』に記載されている「不審者対応」を行い、他の子どもへの安全についても配慮するよう様、対応の仕方の統一性を図っています。

(9) 心理的ケア

①	A35 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a	A35
	<input type="checkbox"/> 心理的な支援を必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	○	
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	○	
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	○	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 心理的支援を行うことができる有資格者を配置し、心理療法室を設置している。	○	
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	○	

【コメント】

心理判定員1名を配置し、心理療法室として「遊戯療法室」と「観察室」を設置し、プレイセラピーやカウンセリング等の心理療法を実施しています。また必要に応じてこども家庭センターによる心理面接、医療機関への受診を定期的に行い関係機関と連携しながら保護者への理解を求め対応している。

<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。	○
<input type="checkbox"/> 障害を持つ子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。	○

【コメント】

小学生以上は居室を個室にしており、落ち着いた環境の中で学習に取り組めるように配慮しています。又、学習能力に応じ、食堂を活用し、個別での学習指導できる環境を整えています。又、小学校に関しては定期的に先生が来園し学習指導を行っています。高校に関しても定期懇談や必要時に懇談を行い、学力の把握に努め個別的な学習支援を行っています。中学生は全員、学習塾を活用しています。

②	A37 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a	A37
	<input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。	○	
	<input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。	○	
	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	○	
	<input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、就労させながら施設入所を継続することで十分な社会経験を積めるよう支援している。	○	
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて努力をしている。	○	

【コメント】

進路については進路志望票を使って児童、保護者の意向を定期的に確認している。その上で出来るだけ子どもの意向に沿い、奨学金などを活用しながら支援を行っており、本年度、短期大学に1名進学し、未来の保育士が育っています。

③	A38 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a	A38
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○	
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○	
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	○	
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○	

【コメント】

トライやるウィークやアルバイト等、事前に服装やマナー、社会のルールを伝えています。アルバイト実施時のルールを決め責任や金銭管理についても事前に確認しています。又、トラブル時や生活のリズムなど、子どもの気持を受け止めた上で、子ども自身が解決していけるよう支援しています。

(11) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A39 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a	A39
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○	
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組	○	

①	A40 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

A40

【コメント】

FSWが親子訓練室を活用した面接を積極的に行っています。又、初めて外泊を行う際や長期外泊時には家庭訪問や外泊中の電話連絡を入れるようにしています。良好な親子の関わりを持てるよう振り返り日記を活用しているケースもありました。児童や保護者から家庭復帰の希望がある場合はその都度こども家庭センターとの面接を行い、方針を検討し共有している。

(13) スーパービジョン体制

①	A41 スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザーを配置し、いつでも相談できる体制を確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対するスーパービジョンを定例的に行い、職員がひとりで問題を抱え込まないように、スーパーバイザーなどを通じて、組織としての働きかけをしている。	○
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザー以外にも職員相互が評価し、助言し合うことを通じて、職員一人ひとりが支援技術を向上させ、施設全体の支援の質を向上させるような取組をしている。	○
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザーは、職員からの信頼が得られるよう、研修に参加するなど質の向上に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 国が定める基幹的職員を設置している。	

A41

【コメント】

【課題】 A-2-(13)-⑤ 国が定める基幹的職員は設置されていませんでした。中堅職員の方に、スーパーバイザーとしての自覚を持たせる上でも、「基幹的職員研修」を受講され、日本初の ALL A (評価基準86の全ての項目で A) の施設を目指して下さい。